

様式例 4

広島市立五日市小学校

平成 22 年度 学 校 評 価 報 告 書

1 学校教育目標

かしこく 素直に 元氣よく伸びる子どもの育成

2 目指す姿（学校像・園児児童生徒像・教師像）

○主体的に学ぼうとする子ども ○思いやりの心のある子ども ○自分の体を大切に子ども
○子どもに寄り添い、確かな指導を行う教職員 ○保護者、地域に信頼される学校

3 現状と課題（重点目標設定理由）

過去3年間で、全国学力テスト、基礎基本定着状況調査において、通過率は急激に伸びている。したがって、基礎学力（漢字、計算等）は確実に定着してきている。しかし、知識を活用し問題を解決する力は依然として弱い。また、昨年度、問題解決能力の育成のための手段として「コミュニケーションの向上」（小集団の活用）に取り組んだが、手段が目的となり、話し合い活動が問題解決力の向上につながっていない。

4 目標

<p>[中期経営重点目標] 安心感もてるクラスづくりを基盤に、算数科で自分自身の考えを明確に持ち、相手の考えを受け入れ、自分の考えを論理的に発表することで問題解決できる児童の割合を全クラスで70%以上にする。</p>	<p>[（中間）評価] ・あいさつは学校全体としては、70%を切っているので目標を達成していない。高学年になるほどあいさつができていない。 ・学校全体では、問題解決ができる児童の割合が目標を達成しているが、4年生から目標に達していない。高学年になるにつれ問題解決の力が弱くなっている。</p>
--	--

短期経営重点目標（1年目）	評価結果	主な具体的方策	実施状況	分析（○）・改善策（◎）・支援要望（☆）
算数科で、自分の考えを持ち、それを発表し、友達の考えを理解することで問題解決ができる児童の割合を70%以上にする。	・論理的思考を見る問題を各学年で実施したところ通過率は学校全体で76.7パーセントであったが、その通過率は学年が上がるほど下がる傾向にある。	・ノート等に自分の考えを表し、小グループの中で、自分の考えを発表し、友達の考えを聞いて理解する場面を週1回以上設定する。 ・考えるきっかけとなる学習課題を工夫した授業を年3回以上行う。	・3段階（3はよくできた。2はできた。1はできなかった。）の自己評価を教員がしたところ。3が45%、2が55%であった。全く意識していない教員はいなかった。 ・3段階の自己評価を教員がしたところ。3が35%、2が65%であった。全くしていない教員はいなかった。	○ テストの通過率では70%を超えたが、具体的方策の実施率が低いことが問題としてあげられる。実施したかしていないかがはっきり目に見える形で提示することが難しく、授業の中での位置づけがしっかりされていなかったことが考えられる ◎ 具体的方策については、来年度どの教員も確実に実施できる具体的な方法を提示し、実施率を上げることを目標にしたい。それにより問題解決のできる児童がさらに増えると考える。 ☆ 校内研究を充実させ具体的な事例を提示できるよう、年3回大学教授を招へいし、研修を深めたいと考えている。
このクラスになってよかったと思う児童の割合を現在の80%以上から90%以上にする。	・児童アンケートの結果によると、「毎日楽しく学校に来ている」と回答した児童が89.5%であり、達成することができた。	・帰りの会において、みんなの頑張ったこと及びみんなのために頑張った人を発表し、その頑張りをみんなで認めたたえる。（信用貯金の活用） ・月1回、学級裁量の時間などを利用して、コミュニケーション力を高める活動を行う。（体ほぐし、アサーショントレーニング等） ・週1回以上、日記指導（必ずコメントを返す）により児童の心の状態等を把握すると共に、児童とのつながりを深める。	・3段階の自己評価を教員がしたところ。3が63%、2が32%であった。1が5%であった。 ・3段階の自己評価を教員がしたところ。3が38%、2が48%であった。1が14%であった。 ・3段階の自己評価を教員がしたところ。3が41%、2が41%であった。1が18%であった。	○ 目標に0.5%届かなかったが、質問の「毎日」という言葉にひっかかった児童が多く、毎日では無く時々は嫌なことがある（悪口を言われる等）という意味で回答した子が多かった。アンケートの質問事項の難しさを感じた。 ◎ 来年度は、どうして楽しくないのかをアンケートすることで、子どもが何を感じているかを教師がしっかり把握し、個別の対応を行っていくことで楽しくない児童の数を減らすことを考えていきたい。 ◎ 取組を行いやすくするために、具体的な事例の提示が必要であると考える。
気持ちのいいあいさつができる児童の割合を現在の70%以上から80%以上にする。	・児童アンケートの結果によると、「あいさつが自分から進んでできる」と回答した児童が86%であり、達成することができた。	・登校して教室に入る時、教室に人を迎える時、下校時に教室を出る時は、元氣よくあいさつする。 ・登下校時に、見守り活動をしている人、知り合いの人、先生、友達に会ったら、元氣なあいさつをする。 ・校内で、学校外から来られた人に、元氣よくあいさつをする。（以上3項目の評価を月1回、振り返りカードを活用し、自己評価させる）	・3段階の自己評価を教員がしたところ。3が50%、2が46%であった。1が4%であった。 ・87%の児童が進んであいさつをしていると回答した。 ・来校者にあいさつができていないという児童は41%であった。	○ 目標が達成できた大きな要因の一つは、教室の出入り口に「おはよう」などの貼り紙をしたことによって児童のあいさつに対する意識が高まるような環境作りができたこと。 ○ ふり返りカードを使用し、自己評価させることで児童が自分の行動を振り返ることができ、次への意欲につなげていくことができた。 ◎ 来年度も、教員の共通理解のもと、現在の取組を継続していきたいと考える。 ◎ 来校者にあいさつができないと答えた児童は、来校者に会わなかったことを理由にあげていた。児童に質問の意図を確認していく必要があると感じた。

5 学校関係者評価に関する事項（主な意見等）

○ いろいろな場面で児童に出会うことがあるが、自分から挨拶をする児童が増えてきたように感じる。今後も指導を続けて、気持ちのいい挨拶のできる児童を増やしてほしい。
○ いじめの問題は見えにくい部分もあると思うが、今後も引き続き事実を把握されたら改善へ向けて取組を進めてほしい。

6 その他の報告事項